

児童数が少ない小学校が校区外から児童を受け入れる「小規模特認校制度」を導入している県内全4小学校のサミットが11日、亀山市立白川小学校で開かれる。名張市からは国津、滝之原の両小学校が参加。校長や保護者が教育面での効果や課題について他校と意見交換し、学校運営に役立てる。

小規模特認校 現状と課題は



小規模特認校の特色などが報告された昨年6月のサミット(名張市立国津小で)

県内4小サミット 11日、亀山

サミット参加校は名張市立国津、滝之原両小、亀山市立白川小、いなべ市立西藤原小の4校。国津小の提唱で昨年6月、同校で初めて開催。4校持ち回りで毎年開くことになった。

各校から校長とPTA代表が出席。各校長が取り組みや現状を報告し、特認校に入っ

卒業後の成長保護者が発表

名張から国津、滝之原小

を選んだ理由を明らかにするほか、特認校で学んだことが卒業後にどう生かされ、成長しているのかについて卒業生の保護者が紹介する。開催校の白川小の川合正男教頭は「良い点も課題も出し合い、特認校制度を見つめるきっかけにしたい」と意義を説明する。

国津小の雪岡正明校長は「特認校制度を利用して入学する児童が年々増えている現状をアピールしたい」。滝之原小の福村俊夫校長は通学児童がいる世帯も、いない世帯も、滝之原地区の全戸が同小

のPTAに加入している特徴を挙げ、「地域全体が学校運営に参画していることを報告したい」としている。

小規模特認校制度は、少人数による指導や豊かな自然を生かした教育活動、地域交流など小規模校ならではの特色を生かし、ここに魅力を感じた児童を校区外から受け入れて児童数の増加につなげるねらいがある。

国津、滝之原両校は2007年度、西藤原小は06年度、白川小は05年度から同制度を本格的に実施。国津小は全校児童41人のうち36人、滝之原小は24人のうち7人、西藤原小は54人のうち8人、白川小は43人のうち9人が同制度を利用して通学している。